

令和3年度第1回西成特区構想エリアマネジメント協議会 こども・子育て専門部会 議事要旨

1 日 時 令和3年7月2日(金) 午前10時から午前11時50分まで

2 場 所 西成区役所 4-7会議室

3 出席者

【有識者】

村上教授(大阪大学大学院)、永橋教授(立命館大学)、水内教授(大阪市立大学)

【地域メンバー】

乾委員(西成区社会福祉協議会)、岡村委員(西成区PTA協議会会長)、荘保委員(わが町にしなり子育てネット代表)、川辺委員(NPO法人西成チャイルド・ケアセンター代表理事)、小林委員(NPO法人釜ヶ崎支援機構)、児玉校長(成南中学校)、川西校長(橘小学校)

【西成区】

平野子育て支援担当課長、宇野こども・教育支援担当課長代理、狩谷企画調整担当課長代理

【大阪市】

泉谷経理・企画課長代理、西口経理・企画担当係長(こども青少年局)、竹山指導主事、浦指導主事(教育委員会事務局)

4 議事要旨

(1) 今後のこども・子育て関連施策の展開についての意見交換

- ・来年度以降に実施する施策のご意見をいただきたい

【不登校対策について】

- ・現在行っている対策において学校・家庭以外のサードプレイス(第3の居場所)の考え方がないのではないか  
⇒こどもサポートネットにおいて推進員・スクールソーシャルワーカー等がフリースクールや適応指導教室、自立アシスト事業等の施策につないでいる
- ・もと弘治小学校の適応指導教室とプレーパークが連携できれば有意義な居場所になるのではないか
- ・適応指導教室は見学可能か  
⇒可能である
- ・統計的に西成区は不登校の子どもが多いので何か対策ができれば
- ・適応指導教室を利用している子どもはどの地域から来ているのか  
⇒西成区の子どもも利用しているが、基本的には大阪市内各地から来ている
- ・不登校の原因として、馴染めなく学校・教室に居場所がなく何となく行けなくなっているのではないか
- ・不登校対策にまなび・サポート事業は効果的である
- ・小学校中学年くらいからこだわりが強くなりだし、他人との関係構築が難しくなり不登校に至るケースが多い
- ・放課後デイサービスを活用している家庭が多かったので、今後連携を深めていきたい

- ・こども生活まなびサポーターが毎朝訪問することによって登校につながったケースがある
- ・こども生活まなびサポーターの配置について各校1名ではなく柔軟に対応できるような体制が必要ではないか
- ・登校できるようになるには保護者の協力が不可欠。保護者からのアプローチを学校からだけでなく区役所からも行ってほしい

#### 【ヤングケアラー支援について】

- ・小学校1～4年までは本人の自覚が無いので学校が家庭の把握してはどうか  
⇒学校の先生向けに発見のポイント等の研修を予定している。また、発見後の繋がり先の整理を行い支援しやすい体制づくりを考えている
- ・小学校5・6年生になると一定自身の状況を把握していると思うので調査を行ってみてもいいのでは
- ・ヤングケアラー支援は親支援
- ・家族とのコミュニケーションが大事。学校から電話で確認するのではなく直接訪問する事を大切にしている。

#### 【居場所について】

- ・不登校、ヤングケアラー、居場所の問題はそれぞれ別の入口から始まっているように見えるが要因的には複合的になっている。出口の支援についてはいろんな支援が行え、大人、子どもに関わらず、誰もが気軽に行ける居場所を各所に作る必要があるのではないか
- ・子どもだけの施策ではなく子どもと色んな人が関われる居場所を作らなければならない
- ・子どもは地域で育つので地域の居場所が必要であるし、地域の意識を上げることが大事ではないか
- ・子どもの居場所を作るだけでなく、子育てをしていない困難を抱えている若者等でもサポートを受けられる居場所が区内に複数作るといった提案は可能ではないか
- ・行政は縦割りではなく各所属が横軸で連携した議論をしてもらえれば

#### 【プレーパークについて】

- ・平日開催をしてこそ居場所ではないか  
⇒限られた予算の中で安全管理のための人件費が必要なため基本土日開催に留まっている
- ・地域のボランティアを活用すればいいのではないか
- ・プレーパーク事業を常設化するための検討を議論に入れることはできないか  
⇒もと小学校を利用していることにより、光熱費、修繕費等の維持費が掛かる等制約が大きい  
⇒事業開始から現在までの経過で地元の方が引いてしまっている状況なので、常設化はかなりハードルが高いのではないか  
⇒ボランティアを集めるのは良いがスキルを持った人材が必要
- ・委託事業者と地域のボランティアが連携して実施する事は可能ではないか
- ・時間帯に応じて利用者が違う形にすればいい場所になるのではないか

## 【その他】

- ・小学校入学前に区外転居される方が多いと思われ、そこを補っているのが外国人と思われる。  
0～5歳児家庭の施策が必要ではないか
- ・ケア会議の対象者とこどもサポートネットの対象者が明確に分けられているのが現場の実情に合っていないのではないか  
⇒ケア会議の対象者にもこどもサポートネットのスクールソーシャルワーカーが積極的に関れるように整理を行った
- ・根本は親にどれだけ支援ができるのかが重要。親が抱えている問題に保健師を派遣する等もっと関わられるような体制づくりが出来るのではないか
- ・環境等のハード面の支援も大事であるが、人的なところの教育や支援が大事なのではないか
- ・支援している人がコロコロ変わるのは対象者が混乱するのでそういったところに予算をつける等して長い目で支援できる体制を整えてほしい

○意見をまとめ次回の会議で報告させていただく

### (2) あいりん総合センター跡地の住民福利の活用に関する議論について

- ・今後のあいりん総合センター跡地の住民福利の活用に関する議論方法について説明

### (3) 令和3年度エリアマネジメント協議会 こども・子育て専門部会のスケジュールについて (案)

- ・令和3年度のスケジュールについて説明